

会 議 録

会議体名		令和6年度第4回豊島区男女共同参画推進会議・女性活躍推進協議会
開催日時		令和6年11月1日（金）13時～15時00分
場 所		男女平等推進センター研修室2およびオンライン会議
出席者	委員	治部れんげ、クリストッフエルクラッツ、片上平二郎、村木太郎、有里真穂、北岡あや子、塚田ひさこ、星京子、宮地明子、阿部やよい、栗林知絵子、須藤啓光、紙子陽子、永野浩美、原実則
	事務局	総務部長、男女平等推進センター所長、各所管課長、係長、係員
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開
会議次第		1 議題 （1）第1次豊島区困難女性支援基本計画について （2）その他
会議資料		< 資料 > 資料 1-1：第1次豊島区困難女性支援基本計画（案） 資料 1-2：第1次豊島区困難女性支援基本計画（素案）に関する委員意見の計画案への反映について 資料 1-3：第1次豊島区困難女性支援基本計画目標について 資料 1-4：第1次豊島区困難女性支援基本計画（案）のパブリックコメントの実施について 資料 1-5：第1次豊島区困難女性支援基本計画策定スケジュール案（令和6年11月1日時点）
事務局（所長）		現在の出席者数は15名、豊島区男女共同参画推進条例第19条に規定された会議開催の委員定足数に達していることを報告する。また、ファミリーシップ制度が議会にて条例改正全会一致で可決され、本日11月1日より導入することが出来たことを報告させていただく。
会長		令和6年度第4回豊島区男女共同参画推進会議・女性活躍推進協議会を開催する。傍聴希望の方はいらっしゃるか。

会 議 録

事務局	2 名いらっしゃる。
会長	傍聴の可否について委員の皆様にお諮りしたい。いかがか。(委員了承) 傍聴については許可したいと思う。事務局より資料の確認と説明をお願いする。 議題(1) 第1次豊島区困難女性支援基本計画について —資料 1-1、1-2、1-3、1-4、1-5 の説明— ご意見・ご質問等はあるか。 それでは最初に私から質問だが、資料 1-1 困難女性支援基本計画の 46 ページ記載の指標③若年女性支援の充実について、SNS やターゲティング広告を活用すること自体は良いと思うが、政策の評価の基準として、インプレッション数・リーチ数を使うこととなっている。確かに全く見られていないのは意味がないとは思いますが、困っている人に届き、窓口につながるものが本質であり、いわばアウトプットではなくアウトカムが問われることである。そのため、インプレッション数・リーチ数を計画目標に掲げることの是非について事務局に伺いたい。また、委員の中には支援業務に携わっている方もいらっしゃると思うので、その方から見てどういうことを目標に掲げるのが妥当であるのかご意見を伺えたらと思う。
事務局(所長)	なかなか指標の設定が難しく、昨年度からずらんスマイルプロジェクトでターゲティング広告を行っており、これであれば数値を出せるというところで、苦肉の策として上げたという状況である。相談窓口についても若年女性支援の窓口というものがないので、相談数を指標とすることも難しい。
会長	若干心配なのは数字を掲げると行政はそこへ向けてリソースを投入するが、例えこの数に届かなくても個人が区の施策を使ってくれば良いのかと思うところもある。現場での支援の実績に基づいて設定しているということであれば妥当かと思う。 他にご意見はあるか。
A 委員	居住支援体制の推進について、セーフティネット住宅の登録促進や、空き家

会 議 録

住宅課長代理	を活用するという記載があるが、これには不動産の現場と乖離があるような印象を受ける。なぜセーフティネット住宅にこだわっているのか理由を教えてください。また、行政がしっかりと緊急連絡先の代わりになってくれるような支援団体、もしくはそういった組織を作ることが必要だと思う。実際に民間団体ではそのようなサービスを展開しているところもあるが、利用促進が進んでいない現状もあるため、ぜひ検討していただきたい。 一点目のセーフティネット住宅については、国の施策の方向性として、民間の賃貸住宅をいかに居住支援に活用するかというところで施策が進められている。豊島区でも、民間賃貸住宅の空き室が多くあるが、住宅確保要配慮者に対する支援が進まないという現状があるため、セーフティネット住宅の登録促進や家賃低廉化補助等によって支援の充実を目指していきたいと考えている。二点目の緊急連絡先等の課題については、区役所 4 階の福祉部にある入居相談窓口にて実際にそのような相談があった場合には、民間団体の紹介や、社会福祉協議会のサービス等を紹介している状況である。区の方で支援団体や組織を作ることについては、今後検討させていただく課題と認識している。
B 委員	緊急連絡先の件については、福祉事務所において生活保護の方がアパートを借りる際に、既に区が緊急連絡先になっているので、そこをしっかりと書いていけば良いと思う。また、本区は既に民間と連携して、ひとり親を対象としたシェアハウスの取組みを行っているので、そのことを具体的に書いてはどうか。
事務局（所長）	今のご意見を踏まえ修正したいと思う。
副会長	冒頭に出た計画案 46 ページ指標③の部分で、SNS を活用したターゲティング広告によるインプレッション数・リーチ数を定めているが、実際に広告をクリックした人の数が良いのでは。
事務局（所長）	インプレッション数は広告が表示された回数で、リーチ数はクリックした数のことである。
C 委員	子どもたちと関わっていく中で、親御さんも困難女性で子どもが犯罪に巻き

会 議 録

	込まれるケースや、子ども自身もそういう犯罪に知らない間に加担してしまうということがあると感じている。地域の中で相談できる場所や人が必要なのではないかと思う中で、支援の拠点として NPO 等も効果的だと思うが、本来区民ひろばのような、そこに行けば何でも相談できるような場所も、今後連携していく必要があるのではないかと感じた。相談できる場所として今後発展し、連携の中で一番有効な位置付けになるようなまちづくりができれば良いと思う。また、地域には保護司や民生委員がいるが、その方たちがどれだけこの政策の一員になっていくかというのは重要な課題ではないかと思う。
事務局（所長）	区の方で今後犯罪被害者支援にも取り組んでいくという方向が出ているため、計画案 39 ページに主な取組として追記する予定である。地域等との連携についても書いていこうと考えている。
D 委員	3 点ある。まず 1 点目が計画案 47 ページの指標⑥民間団体や関係機関との協働の推進の評価指標について、評価指標が民間団体数になっている。43 ページの主な取組 24 番ネットワークの構築と連携するのかと思うが、内容を見ると、連携体制の強化を図り、連携・協働に関連する職員研修を実施すると書いてある。その内容とこの評価指標を照らし合わせた際、評価指標を民間団体数にすることがネットワークの構築ができているという評価につながるのか、もう少し検討する必要があるのではないか。
事務局（所長）	評価指標は支援状況調査回答民間団体数としているが、ネットワークや連携を考えるにあたり、今回はヒアリングさせていただくような団体が 20 団体あったので、更にそのような団体を増やしたいということでこの成果指標にした。職員研修も今後実施していくが、実施回数を目標とするのか、また研修をしたからといってそれでネットワークができると捉えるのかということもあり、今はしっかり把握できる民間団体数を成果指標にしている状況である。
D 委員	2 点目は第 2 章のデータについて、表記の仕方を整理する必要があると思う。調査主体と年号を統一して記載した方が見やすいのではないか。また、20 ページ

会 議 録

会長	ージの関係機関・民間団体への調査結果とあるが、関係機関と民間団体は具体的にどういう違いがあるのかが分かりづらいので、団体名を載せるか、支障があるならどういう団体なのかを示す必要があると思う。3 点目が 27 ページの「(参考データ) 民間団体報告書より」のところをもう少しわかりやすく書いた方が良くと思う。見せ方、資料の整理の仕方を調整していただきたい。現段階ではドラフトなので、表記の仕方は今後整えていくものと認識している。また民間団体のデータについては、どのような団体であり、なぜピックアップするのかをきちんと書いていただくとより良いと思う。
事務局（所長）	第 2 章 1 については、豊島区のデータには（豊島区）という表記はしていない。豊島区でないものについて、東京都、全国等という表記をしている。また調査年度等の表記については、経年のものについては書かないというルールで作ってあるが、もう少し分かりやすいように工夫したい。20 ページの関係機関・民間団体への調査結果のところだが、米印で関係機関、民間団体の説明を書いているが、そこにもう少しどういった団体なのかを書かせていただこうと思っている。団体名については明記することで、ご迷惑をかける可能性があるかと思うので、明記しない方向で考えている。既に計画を作っている自治体でも民間の団体名までは出していない状況である。27 ページの参考データについても書き方を検討したいと思う。
会長	民間団体名までは明記しなくても良いと思う。
E 委員	15 ページ（14）のところで、特別区在住の一般の方々に利用してみたいサービスを聞いていると思うが、普通の人欲しいと思うサービスと切実に困っている人が欲しいと思うサービスに違いがあるということもあり得る気がしており、これを根拠に施策を作るのは場合によってはミスリードとなる可能性があるのではないかと気になっている。
事務局（所長）	豊島区でこういったデータがなかなか無く、特別区長会調査研究機構で若年女性に対して調査したものを掲載したが、ミスリードにつながるということであれば削除することもあり得ると考えている。
E 委員	このデータを根拠にすることについては様々な判断ができると思ったので

会 議 録

事務局（所長）	意見を出したが、削除を勧めているわけではない。また目標について、資料 1-3 の 8 番が「女性」「未来」「共に支える」とキーワードが 3 つに絞られており、具体的に入っていて分かりやすく、バランスが良いと思う。 目標は特にキャッチーに使うものではなく、目指すまちとしてどうするかというところが分かりやすいものが良いと考えている。色々な要素が入り過ぎると分かりづらいというのはご指摘の通りかと考えている。
F 委員	先程話のあった計画案 47 ページの指標⑥について、評価指標が団体数というのはどうかと思う。例えば豊島区と民間団体が共同実施した行事の数や、会議に参加した民間団体の延べ団体数等、もう少し工夫の余地があると思う。また 36 ページに記載の予防教育というのは、具体的に何を予防する教育なのかを教えていただきたい。それから 12 ページのデータ（10）の資料名について「犯罪統計書」とあるが「犯罪統計」ではないかと思う。最後に目標案についてだが、「支える」という言葉、むしろ「支え合う」のほうが良いのかもしれないが、そういう言葉が入るのが良いと思う。また事柄の性格上「困った」や「困難」という言葉も入ると良いと思う。
事務局（所長）	評価指標について、困難女性というのが幅広くなかなか団体数を把握するのが難しいところがあり、このままでいかせていただくか若しくは増やしていくという内容で記載させていただこうと考えている。予防教育は未然に防ぐ教育のことだが、例えば DV を未然に防ぐためのデート DV 予防教室など、様々なものが含まれている。
会長	区の意図が伝わるように、何を予防するのかを書いていただきたい。目標のところも含めて他の委員の皆様からのご意見はいかがか。
G 委員	目標について、支援をする側の「つながりたい」「支えたい」というメッセージは入れるべきだと思う。逆に当事者側に立つと、自分が困難であることの自覚がない場合や、「困難」という言葉が入ってしまうことで敷居が高く感じられてしまう可能性があると思う。本当に困っている方がもっと気軽に、垣根無く相談できるようなキャッチコピーにしたい。またパブリックコメントについて、周知不足により、どこでいつやっていたのかというお話もよく聞

会 議 録

会 長	く。本当に困っている方がこのパブリックコメントに参加できるような周知方法をしていただきたいと思う。
事 務 局 （ 所 長 ）	言葉をどう使うかは重要で、マーケティングしていかななくてはいけないと思う。客観的にみて相当困難な状況にあっても多くの若い女性、シングルマザーの方、中高年の方も大丈夫と仰る。そこを何とかしていこうというのがこの政策の肝だと思う。またどうやって周知していくかはすごく大事で、行政がやっていることが必要な人に届いていないことが多々ある。特に若い方は区報等をあまり見ないので、どのように周知していくか考える必要がある。
副 会 長	目標について、やさしい言葉が重要であると思う。自分事として捉えられるものが良い。また女性という単語が何らかの形で入った方が良いと思う。
C 委 員	パブリックコメントの周知について、全ての施策に対して子どもの声を反映しようとしている中で、中学生に学校を通じて意見をもらえるようなことが出来れば、何年後かには効果が出てきて施策が生きてくると思う。また意見をもらうだけでなく、知ってもらうことにもつながると思う。
会 長	学齢期の子どもも重要な関係者であるので、中学生に話を聞いていただけたら先進的な取り組みになると思う。
事 務 局 （ 所 長 ）	中学校は難しいかもしれないが、中高生が居られる児童館のようなジャンプという施設があるので、そこで展開していくことは可能かと思う。
C 委 員	ひとり親家庭等が対象の中学生向け無料学習支援を女性グループの方で運営していると思う。そこに来る方は、お母さんも孤立しがちで子どもも経済的な面でリスクが高いと思うので、学校は難しいとしてもそこでの意見収集は出来ると思うが。
会 長	こちらは要望ということでお願いする。
H 委 員	目標案について、まず困難女性支援法が今回施策として掲げられているのは、現実困っている方たちが本当に多くいるということを踏まえた施策であると受け止めている。真に必要な方に早期支援を進めていかなければいけ

会 議 録

事務局（所長）	ないと思う。質問だが、10の目標案がある中でパブリックコメントの時に、区民の皆さんも目標案の選定に関わってくるのか。
事務局（所長）	パブリックコメントの時はすでに一つに絞り、それでご意見をいただくという形である。
H 委員	アウトリーチするにしても、その内容が見えないと皆さんに周知をしてもなかなか受け止められないと考えるので、この目標案の大きな冠というのはすごく大事だと思う。目標案に関しては当事者に届くよう、大変慎重に選定をしなければいけないと考えている。
事務局（所長）	今いただいたご意見を踏まえて、今回一つに絞っていただけたらと思う。
I 委員	今自分が困難な状況にあるという自覚がない方が多い中で、ちゃんと届くようにと考えると、あえてそれを外すというのもありかと思う。そのうえで「未来」という言葉は先のことのようにも受け取れてしまうので、資料 1-3 の 1 番から「困難な状況にある」を外して「女性の今と未来をともに支えるまち」が良いと考えた。ただ数を増やしてもよくないので、目標案の中で選ぶとすれば 2 番「つながり支え合うまち」が良いと思う。
事務局（所長）	今回 2 年間の計画となっており、今 1 番大事なのは、困難な状況にあることに気づかない方たちに対して、声をあげて良いのだと伝えていくことであると考えている。
J 委員	資料を興味深く拝見した。計画案の第 2 章について、先程話のあったとおり、うまく整理して見やすい形にすると今どんな状況が起こっているのかももう少し具体的にわかると感じた。また 49 ページの用語の解説はとても有意義だと思うが、計画本文の中に用語解説のページ数や番号を入れて連動させた方がより見やすくなると思う。ご検討をお願いする。
事務局（所長）	ページ数を入れた方がわかりやすいと思うので、工夫させていただきたい。
B 委員	計画案の 18 ページに給与の男女間格差のデータを入れていただいたが、年金も男女格差が大きいので入れていただきたい。また、可能であれば給与だけでなく貧困率も高齢になるほど男女間格差が広がり、大変困難な状況にあるということが分かるデータを入れていただきたいと思う。それとパブリッ

会 議 録

	クコメントを幅広く若い方にもやることは大変良いと思うが、パブリックコメントでいただいた意見をその後どういう形で反映していくのかも重要だと思う。最近気になるのは、男女共同参画だけでなく他も含め、パブリックコメントで色々と良い意見が出ても、事務局が要約してしまい、審議会の方でもよく分からないことがある。あまり要約せずに皆で意見が見えるようにしていただき、参考にしていきたいと思う。最後に目標に関しては、困難女性支援新法に基づいて計画を立てるということなので「困難」や「女性」の文言が入った方が分かりやすくて良いと思う。
事務局（所長）	年金格差のデータについては載せられるかどうかも含め検討したいと思う。パブリックコメントの要約については、こちらの方で工夫できればと考えている。
副会長	目標案について、例えば「はなしができるまち」等は抽象的な気がするので、今何をすれば良いのか分かるストレートな表現が良いと思う。
会長	対象の中には海外ルーツの方も入っていると思うので、何をしようとしているかがストレートに分かる方が良いというのはその通りだと思う。
K 委員	パブリックコメントについては十分に考えてまとめて欲しいと思う。目標案については、分かりやすくシンプルなものが良い。「つながり支え合うまち」が良いと思う。
E 委員	目標について、資料 1-3 の 4 番「困っても大丈夫、支え合うまち」は良くないと思う。困っていること自体は大丈夫ではない。困っていてもしっかり支えますというメッセージにしないといけない。7 番の「つながりわたしらしくいられるまち」も抽象的で、困っている現状をわたしらしさだと捉えてしまう人もいると考えると、良くないのではないかと感じる。3 番の「困ったと声を上げられるまち」は「困った」を使うかどうかの問題はあるが、「困った」という声をともに支え合うまち」のような形で、3 番に「支える」を加えるものもありかと思う。
会長	自分らしさみたいなものが現状肯定のロジックに使われてしまう恐れというのは本当によくあるので、重要な指摘だと思う。

会 議 録

A 委員	目標について、未来も変えていきたいが今もすごく大事だと考えると 8 番に「今」という文言を付け加えて「女性の今と未来を共に支えるまち」でも良いかと思った。
会 長	事務局としてどのようにまとめていくのか。
事務局（所長）	「困った」という言葉を入れるかどうかの方向性はどのようにするか。
会 長	「困った」を入れるか入れないかという一点のみについて皆さんお一人ずつ聞いていくと、この案が集約されていくかとも思うので、順番に意見を伺いたい。
D 委員	「女性の今と未来をともに支えるまち」という文言はお願いしたいが「困った」は入れても入れなくてもどちらでも良い。
G 委員	「困った」はどちらでも良いと思うが、一案として「助けてをつながり支えるまち」というのはいかがか。
B 委員	希望としては 1 番でお願いしたいと思う。
H 委員	現実的に困っている人達も含めて伝わらないとこの政策の意味がないと思う。「困った」という言葉自体はきちんと伝えて、当事者がそれを理解出来るような目標案にしていだきたいと思うので、「困っている女性を支えるまち」が分かりやすいと思う。
I 委員	2 番が良いと思う。
J 委員	「困った」を入れる方がターゲットとして分かりやすいと思うが、1 番は長い気がする。「支える」という言葉だけだと弱いので、「支える」を入れるのであれば「ともに」が必要だと思う。「ともに」を入れないのであれば「支え合う」という言葉を使わないと、支える人と支えられる人の間に壁を作ってしまう可能性があるので、言葉のチョイスも気になるところである。
A 委員	ターゲットが明確な方が伝わりやすいと思う。1 番に近いが「困難な状況」というと少し硬いので「困っている女性の今と未来をともに支えるまち」でも良いのかなと思う。
K 委員	やはり今が大事であると思うので、「女性の今と未来を支える」という言葉を入れて欲しいと思う。

会 議 録

F 委員	「ともに支える」か「支え合う」という言葉はぜひ入れていただきたい。「困った」を入れるかどうかはどちらもありかなと思い、決められない。「困った」というと強い印象になるので、「助けて」という言葉を入れるというのは一つのあり方かと思う。最後は会長と事務局とで皆さんの意見を踏まえて決めていただくしかないと思っている。
E 委員	女性の今と未来を結びつけるコンセプトは良いと思い、「女性の今と未来を共に支え合うまち」というのが一つの案である。また、「困っている」を入れる場合、「困っている女性」では重すぎるので、「声」をつけて「困ったという声」「助けてという声」の方が良いと思う。
L 委員	ストレートに伝わるという意味では「困った」「助けて」という言葉を入れるのが良いと思ったが、逆にそれを聞いた時にネガティブなイメージにならないか心配なので、「女性の今と未来を共に支え合う」はどうか。
M 委員	「困った」を入れるかどうかについては、入れない方に賛成である。例えば、困窮者支援窓口や困難女性支援窓口といわれたら近付くのが難しくなるところ、女性支援窓口や生活支援窓口、子ども家庭支援窓口であればどの方も行きやすくなると思うからである。また、8 番の「女性の未来を共に支えるまち」が良いと最初から思っていた。未来というのがあまり遠いイメージではなく、現状に対して支援を行い、現状を変え、それが明日につながるという意味に捉えていたので、「今と未来」とそれぞれ入れなくても良いのではないかと思う。
G 委員	「助けて」とか「困っている」という言葉を入れることでつながる人もいると思う。「困っている」ことを「困っている」と言うことは恥ずかしいことではなく、それこそが勇気であるというメッセージもどこかにあれば良いと思う。
副会長	「困っている女性を支えるまち」や「手をのばすまち」等、分かりやすさが一番重要であると思う。
会長	皆さんそれなりに理由のあるプレゼンテーションだったので、預からせていただき、私と事務局で調整させていただきたい。パブリックコメントの前

会 議 録

事務局（所長）	に一度委員の方にお伝えできるように事務局と私の方で進めるということ でよろしいか。 目標とともに修正した計画も一緒にパブリックコメント実施前に送らせて いただければと思う。
会長	本日の議題は以上である。事務局から事務連絡をお願いする。
事務局	令和 6 年度第 5 回会議は令和 7 年 2 月 7 日（金）の 13 時 30 分から研修室 2 お よびオンラインのハイブリッド方式で開催する。また、第 6 回会議について は、令和 7 年 3 月 17 日（月）18 時から豊島区役所に場所を移し、8 階 807、 808 会議室にて開催させていただく。この日は区長への本計画の答申を予定 しているので原則として対面参加のみとさせていただく。
会長	以上をもって令和 6 年度第 4 回豊島区男女共同参画推進会議・女性活躍推進 協議会を閉会する。